


Rotary  あすかロータリークラブ
Asuka Rotary Club Weekly Bulletin

RI 会長：K. R. "Ravi" Ravindran

地区ガバナー：中澤 忠嗣

会長：澤 光彦 エレクト：吉川 隆博

副会長：松中 久 幹事：森下 秀城

クラブ会報委員長：富士川拓也

Vol. 25 No. 4 (No. 1151) 2015年7月23日発行

前回のニコニコ / 前期預かり分 / 今年度累計
¥21,000 / ¥0 / ¥161,000



新緑の稲田

撮影地：和歌山県有田町 撮影者：井上重行

第1151回 2015年7月23日(木)

- 1 開会点鐘
- 2 ソング「我等の生業」
- 3 お客様紹介
- 4 会食
- 5 会長報告
- 6 幹事報告
- 7 出席報告
- 8 ニコニコ報告
- 9 委員会報告
- 10 本日の卓話
「活動計画発表」
- 11 閉会点鐘

1150 回報告 2015年7月16日(木)

於：橿原ロイヤルホテル

ソング

「我等の生業」

ソングリーダー

岩井 常二会員

ゲスト

戸田守亮様 (卓話講師)

出席報告

	全会員	免除者	出席者	MU	出席率%
第1149回	57	22	39(12)	0	82.98
第1147回	57	22	44(15)	4	96.00

ニコニコ報告

- 吉田 雄策君 戸田先生、本日の卓話よろしくお
願ひ致します。
- 富士川拓也君 先週はカメラのメモリが抜けてお
り、ご迷惑をおかけしました。
- 山本 進章君 結婚祝いの花束、ありがとうござ
いました。

浅田 昌彦君 誕生日のプレゼントありがとうござ
いました。

会長挨拶

- 本日の卓話でおいでいただいています、橿原文化
協会会長の戸田守亮様は、本年度の目玉行事であ
ります、「万葉集より学ぶ、日本の国家観のはじまり
品格が必要な時代」というテーマで1年間講
演いただきます。どうぞ戸田様よろしくお願ひい
たします。
- 先日、12日に地区青少年グループ合同会議に井村
青少年委員長、浅田青少年副委員長、森下幹事と
行って参りました。
- 本日もよろしくお願ひいたします。

幹事報告

- 次週、第2回方針計画発表会の発表者について
- 地区青少年交換学生について
- 「ロータリー希望の風奨学金」ご支援お礼状につ
いて
- 橿原神宮林間学園について

次回の例会

「新入会員自己紹介」

堤 誠治会員

吉野修一郎会員

「万葉集より学ぶ

～日本の国家観のはじまり～

品格が必要な時代」



橿原文化協会

会長 戸田 守亮様

4つのテスト 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

【現職】

橿原市文化協会 会長
奈良県文化協会連盟 会長
NPO 全日本文化団体連合会 理事長
学校法人育芸学園 八木服装女学院 理事長
中国洛陽市 榮譽市民
社団法人全日本きものコンサルタント協会 顧問

「教育のあり方 見直す時」

橿原文化協会の歴史から学ぶ講座「第240回橿原学」が、6月19日、県社会福祉総合センター（同市大久保町）で開かれた。明治時代、欧米思想が日本国内に広がりを見せつつある中、井上馨や岡倉天心ら敢然と立ち向かう人々も多くいた。戸田会長は「怒濤の如く入ってくる欧米思想を畏怖した人々からは、文学や芸術の分野で日本の良さを発信した」と指摘。岡倉が著した『東洋の理想』や日本の目覚め』は多くの欧米人に支持されたと紹介した。その上で、「日本が評価されていた時代はあった。現在の国際社会の中で、いかに日本が活躍すべきか。日本人が日本の国土に自信を持てるよう教育のあり方を見直す時にきている」と力説した。

万葉集は、四千五百十六首あり、上は天皇から、下は浮れ女や農民までも歌が収められています。ですから、万葉集には色々な歌があるのです。万葉集の歌は130年間という長い間に詠われた歌が集められていますので、歌を集めるだけでも大変だったと思います。ですから、万葉集には色々な詩があるのです。多くの歌を集めて発行に力を尽くしたのが大伴家持です。

まず橿原の地、明日香の地には1番根付いた有名な歌を紹介します。

万葉集には舒明天皇が大和三山の一つ天の香久山に登られて詠われた歌があります。

大和には 郡山あれど とりよろふ
天の香具山 登り立ち 国見をすれば
国原は 煙立つ立つ 海原は 鷗立つ立つ
うまし国そ 蜻蛉島 大和の国は
(巻1-2 舒明天皇)

大和には、数々の山があるけれど、なかでも特別に神聖な天の香具山、そこに登り立って国見をすれば、広々とした平野にはあちらこちらに煙が立ち、広々とした海にはあちらこちらに鷗が飛び立っている、ああ、良い国だ、蜻蛉島、大和の国は。

当時、天皇は高いところに登り、大和の国民の生活状態や暮らし向きを、また、美しい風景を眺め、国民の民と一緒に、この大和の国を忘れないように、共に益々発展していきましょう。と情熱を燃やされる

て残された歌が、現在の日本に繋がっているわけでございます。中国は歴史が古く、三国志など有名なものがありますが、万葉集の様に4,000余りの歌が集められているものはありません。万葉集は、世界に誇るべきものだと思います。

欧米と日本の違いをひしひしと感じたことがあります。私には10年前くらいに知り合いになったイギリス人の知人がいます。昨年秋頃、奈良ホテルで彼に会いました。皆様もご存知の通り、奈良ホテルの周りには沢山の木々が茂っており、蝸（ひぐらし）や色々な虫が鳴いておりました。それを聞いたその知人は“noisy”と言ったのです。私はすかさず、「君は何を言っているのだね。虫たちは長い間土の中で育ち、今やっと外に出たのだ。人間でいうと人生を謳歌している時なのだ。日本人はその虫たちの声を聴いて短歌や俳句にしたためるのですよ。」と云々と、知人は「さすがに日本文化というものは深いですね。」と驚いておりました。私は、「京都へ行けばもっと日本の美に触れることができるでしょう。」と勧めました。知人はその後すぐに京都に寄ったようで、「部屋に運ばれてくる料理や料理を運んでくる女性の立ち居振舞いの美しさに情緒美を感じた。」と電話がありました。

日本人は情緒というものを大切にしてきた民族です。万葉集を親しんで頂けると感じ取れるところが沢山あると思います。情緒美を大事にしていく日本文化の良さを万葉集を通じてお伝えしたいと思います。

夏の野の 繁みに咲ける 姫百合の
知らえぬ恋は 苦しきものぞ
(巻8-1500 大伴坂上郎女)

夏の野の茂みにひっそりと咲いている姫百合のように、人に知られない恋は、苦しいことです。

君が行く 海辺の宿に 霧立たば
我が立ち嘆く 息と知りませ
(巻15-3580 遣新羅使人の妻)

あなたが行く海辺の宿に霧が立たば、それは私が立ち嘆く息とお知りください。

【参考】旅立つ夫を送る妻の嘆きですが、夫からの返歌があります。

秋さらば 相見むものを 何しかも
霧に立つべく 嘆きしまさむ
(巻15-3581 遣新羅使人)

秋になれば帰ってくるのに、どうして霧が立ち込めるほどに嘆くのだね。